

研究課題名

自己採取 HPV 検査における自己採取キット検体の保存安定性評価に関する研究

本調査研究は、倫理審査委員会の審査結果（承認）を踏まえて理事長が許可した研究であり、亀田総合病院、亀田京橋クリニックの各産婦人科、よしの女性診療所を治療目的で受診した成人女性や、過去の子宮頸がん検診で異形成以上の結果だったために経過観察中の方が対象となっており、2021年3月31日までの予定で実施します。

この調査研究では、自己採取 HPV 検査用の検体自己採取キット「エバリンプラシ」で採取した検体の安定性を確認するため、検体採取から検査までどれくらい時間が経っても大丈夫なのか、また検査までに検体がさらされる温度がどれくらいまで上がっても大丈夫なのかの目安を明らかにすることを目的としています。

当財団は本調査研究において、ハイブリットキャプチャー法による HPV 検査を受付直後と一定条件で保管した後に実施します。この調査研究で実施された HPV 検査のデータ等について解析することにより、自己採取 HPV 検査の精度を高めるための条件・環境を整備していくことが可能となり、国内の子宮頸がん予防に大きく寄与するといえます。

研究責任者

亀田総合病院産婦人科（清水幸子・主任産婦人科部長）

当財団における研究責任者

健診事業部 片桐克美